

付属文書 D

ICM 能力 1 とその KSBs の分類例

2012 年

序論

助産教育の内容の構成とその助産課程内での配置に関する 1 つのアプローチは、ICM が定めた 7 つの能力とそれぞれの知識・技術・行動（KSBs）を精査し、KSBs が各能力の記述に対してどのレベルまたは順序にあるかを考える方法である。この文書は、「能力 1」を例にとり、理論と技術を基礎・上級・複雑の 3 つのレベルに分けたらどのようなようになるかを試みたものである。一つのアプローチの提案に過ぎないが、助産学教員やコンサルタントが新しい助産カリキュラムを構成したり、既存の助産カリキュラムを評価したりする際に役立つと考える。同様のプロセスで、残りの 6 つの ICM 能力の記述と関連する KSBs を分析することもできるだろう。

ここで提案する「レベル」は、どのモジュールまたは科目ユニットを全体のカリキュラム中のいつ提示するかを決定するのに使用することを想定したもので、特定の年次・月への配置を指示するものではない。たとえば、ダイレクトエントリー課程では、学習者は女性や出産を迎える家族に対する助産ケアの提供を早く始めたい希望があることを前提とすれば、健康な女性に対する助産実践の導入と同時期に助産の就業前の能力を提示するという可能性もある。一方、登録後助産課程では、助産教育の内容の「前提条件」として必要な内容は、助産課程に入学する前に求められるか、あるいは課程の初めの助産の内容に組み入れられるかもしれない。ICM 能力 2~7 のそれぞれの構成の方法に合わせて、教員の判断で、健康な出産と合併症をとまなう出産を同じ科目ユニットまたはモジュールで教える課程もあるだろう。逆に、正常または健康な出産の内容を、合併症と分けて扱う課程もある。どの内容をカリキュラムのどこでいつ教えるかの判断にどのようなアプローチを使おうとも、すべての ICM 能力とその KSBs が含まれていて、課程の教員および学習者にとって明確になっていることが重要である。

読者への注記：専門職としての助産課程の多くは、科目・内容・配置を課程のウェブサイトで公表している。助産学教員は、それぞれの状況（国内事情）に応じてどのような構成パターンが最善または望ましいか最終決定をする前に、ダイレクトエントリーおよび登録後助産課程に関するこのようなサイトを確認するのが有用だろう。ウェブサイトの例は、「リソースパケットその 3」に掲載されている。

ICM 能力 1 から派生する KSBs の分類例

「助産師は、女性、新生児、家族に、質の高い文化的に適したケアを提供するために、その基礎となる産科学、新生児科学、社会科学、公衆衛生学、倫理学の一定の知識と技術を有する。」

初級レベル内容：助産師就業前能力¹

知識

- 基礎科学——生物学（発生学および人間発達学）、基礎化学と微生物学、人体解剖学と生理学、薬理学
- 社会学および心理学
- 健康の社会的決定因子——所得、識字能力と教育、給水と衛生、住居、環境災害、食品の安全性、疾病パターン、健康に対する一般的なリスク
- 公衆衛生・地域衛生——健康増進、疾病予防・管理戦略（関連の国家プログラム、疫学的原則、地域診断、人口動態統計の解釈を含む）
- 地域および住民に根差したプライマリ・ヘルス・ケアの指針
- 個人・家族・コミュニティの支援制度の要素と、必要時に支援資源を動員する方法
- ライフサイクルを通じた栄養
- 研究と根拠に基づく実践の原則
- 質の高いヘルスケアサービスの指標
- 健康教育の原則——どのように、何を、いつ、どこで教えるか
- 国内・地域のヘルスサービスとインフラ（高次病院への紹介システムを含む）
- 人権と、個人の健康に与える影響
- 地域の文化と信念、価値観や行動に与える影響
- 伝統的な医療実践と現在の医療実践（有益性と有害性）
- 批判的思考（クリティカル・シンキング）と臨床上合理的な理論基盤
- 専門職としての行動——倫理綱領
- 健康スクリーニングと診断検査の基礎と利用
- 協同的な仕事関係の理論

¹ 他の医療従事者教育に由来する知識・技術・行動には、基礎科学、社会学、職業倫理、診察内容の基礎技術、臨床的推論などが含まれると一般に言われている。「ICM 能力 1」および助産師教育に関する認可協議会（Accreditation Commission for Midwifery Education : ACME）の 2005 年の文書『助産師臨床課程の前提条件としての知識・技術・行動（The knowledge, skills, and behaviors prerequisite to midwifery clinical coursework）』を参照している。既修の医療従事者教育にこれらの能力が含まれているか、出願者が助産教育課程の入学時にこれを実証できるかどうかを判断するのは、助産課程を担当する教員陣の責任である。前提条件となる登録後の内容が助産の内容と統合される場合には、課程は助産の内容を開始する基準を決定する必要がある。

技術

- 批判的に考え、道徳的に推論し、問題解決スキルを活用する。
- 許容される基準（根拠に基づくケア）および倫理綱領に沿って実践する。
- ヘルスケアにおける他職と協力して働く。
- 有効なコミュニケーションの原則を実証する。
- 適切な教材・資料・リソースを使って、健康教育を提供する。
- 正確な服用量を計算し、成人および新生児に適切な経路で医薬品を投与する。
- 適切なコミュニケーション技術および傾聴技術を使う。
- 総合的な既往歴を聴取し、基本的な健康診査スクリーニングを行う。
- 業務の場に適した設備および備品を準備・利用・管理する。
- 救命を促すため緊急の治療処置を開始する（例：基本的な心臓救命処置、ショックの管理、基本的な応急手当と蘇生、酸素の投与）
- 関連の所見の記録や解釈（実施したこと、フォローアップの必要性などを含む）
- 患者ケアと患者満足度の成果評価

専門職としての行動

- 批判的に考え、道徳的に推論しようとする。
- これらの決定の判断と成果に対して、行動責任と説明責任を受け入れようとする（道徳的主体）。
 - 専門職としての倫理観・価値観・人権と一致した行動をとる。
 - すべての利用者に対して、礼儀正しく、中立的で、差別的ではない、文化的に適切な行動をとる。
 - 個人およびその文化や習慣を尊重する。
 - すべての利用者の情報の守秘性を保持する。
 - 情報に基づく選択、参加型意思決定、自己決定の権利を擁護する。
 - 最新の実践ができるように、知識と技術を維持・更新する（例：自己評価、相互評価、質の高い実践を維持・立証するための継続教育）

注：これらの各内容領域は、特定の能力に関する理論的分類でまとめることができる。たとえば、公衆衛生に関するモジュール（地域診断、健康の社会的決定因子、プライマリ・ヘルス・ケア：健康促進と疾病予防・管理戦略など、疾病パターン（疫学）と人口動態統計など）、専門職としての倫理のモジュール（道徳的主体となることの意味、利用者自身の選択の支援、人権と倫理的意決定の促進方法など）、健康評価のモジュール（病歴の聴取、診察内容、臨床上意思決定、無菌法の原則など）、ヘルスケアシステムに関するモジュール（国と地域のヘルスサービスとそのインフラ、高次病院への紹介とリプロダクティブ・ヘルスに関する社会サービス機関、母子保健に関する国のプログラムなど）、基礎科学に関するモジュール（薬理学の原則など）、社会科学のモジュール（文化、人間発達学、出産の心理社会的側面、女性の心理学的健康・幸福など）。

二次レベル内容：本質的に健康な女性と新生児の助産ケア

- 母子のケアの社会的、疫学的、文化的な文脈にある能力 (ICM 能力 1)

知識

- a. 地域における妊産婦および新生児の死亡率と罹患率の直接および間接の原因と、その低減のための対策
- b. 警告（準備性）の概念、高次医療施設へ搬送するための資源
- c. 利用可能な出産の場（出産計画）の長所とリスク
- d. 安全に出産できる多様な場に向けて、女性と共に提唱する戦略

技術と行動

- a. 普遍的／標準的予防策、感染予防と管理の対策、無菌操作を活用する。
- b. 女性と共有したすべての情報の守秘性を保持する。
- c. 女性および家族と協働する。女性と家族が健康について、あるいは検査や介入を拒否する権利について、情報を得た上で選択できるよう支援する。
- d. 女性と家族へのサービスの実施を向上させるために、他の医療従事者と協働する（チームワーク）。
- e. 当該地域における出生・死亡登録の報告に関する規制を遵守する。

三次レベル内容：生命を脅かすおそれのある症状のある女性と新生児の助産ケア、上級助産実践を含む。

- 母子のケアの社会的、疫学的、文化的な文脈にある能力 (ICM 能力 1)

知識

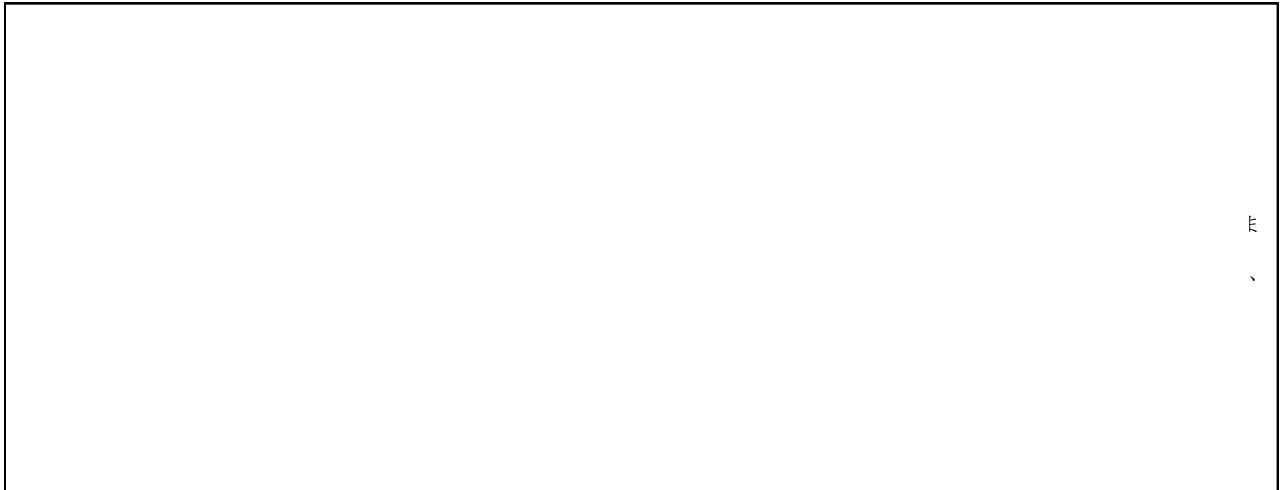
- a. 母親の死亡調査とニアミス監査の方法論
- b. 法律、政策、プロトコル、専門職のガイドラインを含む、あらゆる年齢層の女性のためのリプロダクティブ・ヘルスの法的小および規制の枠組み
- c. 女性の擁護と権利を与えるための戦略

技術と行動

- a. 専門家としての信念と価値観に基づいた実践における指導力の発揮
- b. 質と人的資源の管理を含む、業務・活動の運営と管理（追加能力）
- c. 政策立案における指導的役割（追加能力）

前述のとおり、ICMの7つの各能力は、カリキュラム内の特定の場所に位置づける決定の前に、意図的にレベル分けすることができる。

(公社) 日本看護協会 (公社) 日本助産師会 (一社) 日本助産学会訳



ま
、